●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

まつもと公民館報

発行 2017 7/30

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 32

標高1900メートルの高原を走破
第18回 ツール・ド・美ケ原

松本ヒルクライムがスタート

6月25日「ツール・ド・美ケ原高原自転車レース大会」が開催されました。

松本市野球場をスタートし、美鈴湖を経由して、美ケ原高原駐車場のゴールを目指します。全長21・6キロメートル、標高差1270メートル、平均勾配5・9パーセントの急坂のコースに、全国各地から1673人が参加し、激坂に挑戦しました。

昨年から西の乗鞍岳を会場にした「マウンテンサイクリングin乗鞍」と、東の美ケ原を会場にした本大会を合わせて、「松本ヒルクライム」と命名され、2大会の参加で総合順位を決めます。

雄大な自然の中を走り抜けるコースを、住民参画型の事業実施により、地域活性化を図りながら…。

（撮影 2017.6.25 松本市野球場前）

きめ細かな運行 住民の足確保に地域の独自性

生活に欠かせない移動手段としてバス・電車などの公共交通がありますが、それに加え、地域の実情に合わせ、独自に「住民の足」確保に向けた取り組みを行っている地区があります。地域の高齢者の不便を解消すべく、住民自らが取り組む活動の様子をお伝えします。

地域の不便点

住民の生活に欠かせない様々な公共交通がありますが、諸般の事情で廃止になると、特に高齢者の皆さんは買い物や通院のための代わりの手段が必要です。

市がバス会社の代行をしたり、独自の路線を運行したりする地区もある中で、住民自らが運営主体になって路線を考え、運行時間を決めて、移動手段の困難な方の足を務めている地区もあります。

あたたかい雰囲気の車内

いくつか自主運行している地区がありますが、波田地区と新村地区をみてみます。

地域交通の課題

今回取材をした両地区では高齢者の立場から、上高地線・西部コミュニティバスなどの交通手段では、運行時間や運行間隔、最寄りの駅や停留所までの移動手段、地形的に坂のある場所など、利用するにあたり課題がありました。

導入時に活かした住民の声

公共交通に関する住民の不便点を、ほぼ全世帯を対象に直接聞き取るなど徹底した実態調査を繰り返しています。

新村地区では、地域との連携を掲げている松本大学の学生に、全世帯対象のアンケートを集計して貰い、住民の声を取り入れました。

住民自ら運営

次の段階として住民自らが不便の解消に動くべく、地域バス運行のための団体を設立した例を取り上げます。

波田地区では平成24年6月、地区福祉ひろば事業推進協議会を母体とし、平成25年4月波田地区循環バス運営委員会を発足、運行を開始しました。車両運行はタクシー会社に業務委託しました。

新村地区では、平成22年に西部コミュニティバスの乗車率を上げるための委員会が発足。住民による運行を目指して組織づくりを行い、平成24年11月から、地域住民主体の送迎ボランティア組織「プチ送迎ボランティア」の運行がスタート。近くの医院や買い物など、自前の「プチ送迎車」でドアtoドアの運行をしています。

創意工夫は続く

2つの地区の取り組みは、発足から現在まで、コースや利用方法に工夫を重ねています。

波田地区では一例として、バス利用者に温泉入館料の割り引き券をこころみたり、温泉施設への運行を増便したり、全ての町会をルートに組み入れたりするなど、運行に工夫をしています。結果として当初一便平均3・7人だった利用者は現在7・9人にまで増加しています。

新村地区では利用者の要望に沿った新たなルートの開設や、事故に対する保険の見直しなどを行いました。当初数人だった会員数を約80人にまで増やしています。

このようにどちらも利用者の声を常時取り入れています。

取り組みの成果

地域住民の買い物や通院が便利になったうえに、「買い物の楽しさを思い出した。」「利用者同士の話が楽しい。」などの声が聞かれます。

新村地区の活動は、今年2月に総務省のふるさとづくり大賞を受賞しました。これは地域の交通に関する課題を、住民主体で解決の仕組みを作り上げたことが評価されたものでした。

ふるさとづくり大賞の盾

これからの運行課題

波田地区では、利用者の頭打ちが表れ始め、公共交通への接続を良くし利便性を上げるにはどうするか、市立病院移転に伴う利用者の流れの変化への対応が課題です。

新村では運転者等の高齢化による組織の継続性が課題です。

このように移動が便利になるのはもちろん、新たな住民同士のコミュニケーションの場になれば、主催者・利用者の喜びにつながると思います。

ちょこっと 松本さんぽ

～高らかに囀（さえず）るオオルリ～

オオルリは夏に日本に渡って来る代表的な野鳥で、コマドリ・ウグイスとともに日本三大名鳥と言われ、人気の高い鳥です。オオルリは青く光る美しい鳥で、バードウォッチャーあこがれの的です。今年は、アルプス公園で多く見ることができ、公園東側の土手で営巣し、無事ひなが巣立ちました。

（撮影 2017.4.26 アルプス公園）

地域に根付く 花いっぱい運動

6月17日に「第57回全日本花いっぱい松本大会」が松本市制110周年記念行事として開催されました。松本の花いっぱい運動を支える市内の取り組みを紹介します。

中央地区有志の皆さん

中央地区有志で作る花壇は、松本城北側の駐車場付近の道沿いにあります。今年は5月30日に地元有志、ボランティア部会、附属中学生の総勢70人で夏の花を2350本植えました。

この花壇は1年に2回植え替えを行っており、15年以上活動が続けられています。自動噴射での水やりと、草取りで大切に管理されています。手をかけて綺麗に整備された花壇はお城に向かう人々の目を引いています。

パワフルグリーン田川

田川地区緑化推進協議会会長をされていた田中栄一氏の声かけで田川地区の有志が集まり結成された会は発足4年目を迎えます。

自主事業のガーデニング講習会を開いている中でフラワーコンテストがあることを知り、参加を始めました。前回の佳作受賞に引き続き、今回のコンテストでは優秀賞を受賞しました。作品のテーマ、花選び、皆さんの思いが詰まった温かみのある作品になっています。

月見町フラワークラブ

まちの入り口の公園やロータリー内の公園、公民館周辺の花壇を管理しているのはフラワークラブの皆さんです。

花好きの仲間で平成8年に発足してから毎年フラワーコンテスト、花壇コンテストに応募し高い評価を得ており、今年も優秀賞を受賞しました。

花を通じての仲間作りが町会の絆となり、県外で開催される花いっぱい全国大会にはバスを借りて参加しています。花作りが、笑顔で元気なお年寄りが多い源です。

10年ぶりの全国大会

式典会場のまつもと市民芸術館には、全国から千人を超える人が集まりました。花いっぱい運動の発祥の地、松本の歴史をたどるとともに、エクセラン高校の学生やまつもと子ども未来委員会の活躍に未来へのバトンを感じた式典でした。

松本から始まった花いっぱいの輪を子どもたちが受け継ぎ、次世代へと広げていってほしいものです。

写真でつづる まつもとの今昔㉝

～松本駅西口～

（2002.9.23 写真提供：日本報道写真連盟）

松本駅西口は、山男たちがタクシー相乗りで、上高地から下ってくる場所でもあり、運転手が乗客に深々とお辞儀している姿が印象的だ。たばこ店の自動販売機と、奥に芳栄旅館の看板がみえる。

（2017.7.5 撮影）

松本駅西口広場は再開発で整備され、交通の利便性が向上した。

おこひる

この数日、体調を崩し床に臥していた。ままならない身体に苛立ちは隠せなかった。耳元のラジオは、音楽もおしゃべりも夜の眠りを誘うに役立った。それ以上に、日中の窓外からの諸々の音は実に良かった▼普段は私も内でも外でも「生活する音」を出している一人に違いない。が、それは実に心地良いものだった。子どもたちの学校への行き帰りのおしゃべり。保育園児のお散歩▼お隣が病院だから、切れることのない音の連続。ごみ処理、手押し車の音、空調ボイラーの連続音、救急車、ヘリコプターの飛来、看護師さんたちの出退時、見舞いの人びと、各々の思いの言葉や足取り、宅配トラックの音、自動販売機の音▼何より私の耳に久方振りに赤ちゃんの泣き声が聞こえた。（開放的な夏場だけかもしれない）耳に入るあらゆる雑多な音こそが〝生きている〟生活している〟を実感させる▼夜汽車の音やカエルの合唱だけが優しい刺激ではない。遠く近く聞く運動会のさんざめく音、ビル建設用クレーンの音だっていい。

地域探訪

歩こう松本！ 35 最終回

安曇地区ウオーキングコース

安曇地区は松本平の西方にあり、槍ヶ岳や穂高連峰、乗鞍岳など三千メートルを超す雄大な山岳に囲まれ、岳都松本を象徴する地区です。島々町会周回コース付近を歩きました。

なにか懐かしい

安曇支所から安曇小学校の方向に向かうと映画のロケに使われた診療所跡があるのですが、あいにく、その先が伐採作業で通れないとのこと。地区の方の案内で島々町会の中を通り、徳本峠登山道に向かうことにしました。家々は建て替えられ新しくなっていますが古くからの住宅地なので、まちを縫う自然なカーブを描く道筋に、きちんとまつられた小さな社や湧き出る生活用水が残っていて、とても懐かしさを感じる道です。

新緑とせせらぎ

住宅地を抜け登山道入口に着きますと、そこには動物除けのゲートがあり「ここからは登山道なので装備が必要です」「熊出没注意」の看板があります。山の美しさに引き寄せられますが、ゲートは通らず島々谷川に沿って下りました。目に飛び込んでくるのは桜並木による緑のトンネル。春にはお花見でにぎわうそうです。横に流れる渓流のせせらぎと山々の緑が見事に重なり、いつまでも歩いていたい気持ちになります。

秀綱伝説

国道まで出たところで、その少し東にある島々神社に寄りました。こちらには本殿の他に、落ち延びてきた飛騨高山松倉城主三木秀綱とその奥方がまつられた秀綱社があり、その最期にまつわる悲しい伝説が語り伝えられています。

ここからずっと東に延びるウオーキングコースは、車道と別に歩道が高いところにあり安全に歩くことができます。そこからは観光バスの屋根が見下ろせます。

なだらかな起伏があり山々の自然を楽しみながら歩ける、気持ちの良いコースでした。

わがまち自慢 第16回

MADE IN 東部

近年、話題にあがることの一つに『モノづくり』があります。東部地区は公民館の周りを見回しただけで、古くからの町工場などが何軒も見つかります。

全国から注文のある家具工房、国の重要文化財の修復も手掛ける工務店、松本城の大修理にかかわった石材店、ルーツは善光寺門前町という金網店、縫製店、造り酒屋、醸造所、菓子店などなど。名前を聞けば知っている、という方も多いでしょう。

東部公民館では、これらの身近にあるモノづくりの現場に、直に触れる見学会を行いました。今後も続けていく予定です。

最近若い世代に交代したところや娘婿と一緒にやっているところもあり、伝統が受け継がれています。また、老舗ばかりではなく、地区内に菓子店が開店し、新しい風も吹いています。『MADE IN 東部』の自慢は尽きませんが、一番の自慢はこれらが引き継がれているということでしょう。

見学会の様子

地産地消のかんたんレシピ

超ラクチン『新玉ねぎのレンジ蒸し』

バターとしょう油がマッチング!!

材料：新玉ねぎ、バター、しょう油、パセリ、ラップ

1. 玉ねぎの皮を剥いて上と下を切り落とし、二等分に切る
2. バター10gを乗せてふんわりとラップをして、レンジで5分
3. ラップをはずしてひっくり返し、みじん切りしたパセリを散らし、しょう油をかける